

I C T新事業創出推進会議（第3回）議事概要

1. 日時

平成26年2月13日（木）15時00分～17時00分

2. 場所

総務省7階省議室

3. 出席者

（1）構成員（敬称略）

三友座長、谷川座長代理、岩浪構成員、岡田構成員、木谷構成員、久保田構成員、越塚構成員、島田構成員、清水構成員、関構成員、高橋構成員、千葉構成員、富田構成員、林構成員、藤原構成員、松本構成員、宮部構成員、棕田構成員、安本構成員

（以上19名）

（2）総務省

上川総務副大臣、桜井総務審議官、阪本情報通信国際戦略局長、吉田政策統括官、鈴木官房総括審議官、南官房審議官、渡辺官房審議官、小笠原情報通信政策課長、田原技術政策課長、岡崎情報流通振興課長、鈴木衛星・地域放送課長

4. 議題

- （1）第2回会合における議論
- （2）構成員からのプレゼンテーション
- （3）意見交換
- （4）その他

5. 議事概要

1. 上川副大臣から挨拶をいただいた。
2. 関構成員、島田構成員、木谷構成員からプレゼンテーションの後意見交換が行われた。

主なやりとりは以下の通り

【関構成員】

- 4K8Kは、教育、医療、防災など様々な領域での貢献が期待でき、ODS (Other Digital Stuff) など新しい分野での利活用が見込まれる反面、データの大容量化に伴い、仕様の標準化や配信インフラの整備、表示デバイスの量産化、低コスト化などが共通課題となるのではないかと。
- 教育分野から、高精細な教育映像素材を家庭学習やフィールド学習で活用可能にしていくことを求める声がある。また、医療分野においても、医学教育の見地から、高精細映像により微細な血管の縫合など名医の執刀の様子を伝承することが可能となるのではないかと、との期待の声がある。
- 医療分野では、高精細かつリアルな色表現が実現されることで、遠隔地にいる専門医の的確な支援が可能となるなど、遠隔医療、医学教育の遠隔地での活用が大きく期待されている。

【島田構成員】

- サッカーを4K8Kといった高精細で大画面に映すと、一台のカメラでフィールド全体を俯瞰しながら個々の選手の動きもはっきり見え新しい楽しみ方ができる。
- 高度化された映像は、解像度や、色彩や明るさの階調表現が向上することによる「臨場感」、大量の情報へのアクセスや情報選択の高速化による「アクセス感」、及びサービスの双方向化による「参加感」という3つの価値を高めていくこととなる。こうした3つの価値の高まりが医療、教育、防災など様々な産業領域においても新たな価値を生み出す。
- 高精細映像技術を生かしていくことにより、「感動」、「安心・安全」、「おもてなし」などをジャパンブランドとしての顧客価値にしていくことが可能となる。
- コンシューマーの領域では、端末をウェアラブル化する取組が進んでいる。現段階では、健康関連器具やスポーツのアプリケーションに過ぎないが、将来的には道具全般にInternet of Things、M2Mの端末としてビッグデータの収集・解析を担い、新しい産業や価値を生み出すきっかけになると考えられる。

【木谷構成員】

- 社会インフラの充実には実証実験が重要だが、実証フィールドという「場」の確保に加え、データの収集とその利用に関する制度の弾力化、個人情報の取扱いルール、国民の合意形成も必要。
- 計算機パワーは時代とともに飛躍的に向上してきているが、最近では脳のメカニズム解析（人工知能研究）が世界中で盛んになっている。欧州でも米国でも、それぞれ10年で1000億円以上を投じている。
IBMのワトソンは、既に医療や法曹の専門家の意思決定の支援ができています。
- アイデアソンやハッカソンはアイデアを生み出すよい機会だが、いいアイデアが出てもその場で終わりとなってしまっはもったいない。企業内であれば事業化していきたいが、その場合はコンテスト形式がやりやすい。

【越塚構成員】

- オープンデータ・アプリコンテストについては昨年も実施したが、今年はさらに反響が大きく、エントリーは100を超えている。このようなコンテストは、様々な分野の人が知恵を出すので新しい発想が出てくる。
- 塩尻市のICT街づくり推進事業では、オープンデータを使ったバスロケーションシステムのソフトを作っている。エプソンの工場があり、そこを退職した女性がアプリ制作の担い手となっている。ICTのサービスは女性に受け入れられて初めて成功したと言える。

【久保田構成員】

- 4K8Kは臨場感と高精細で語られがちだが、それ以外にもどのような特性があるのか、どういう使い方がありうるか、まだ想像できていない応用がありうる。
- 昨年末に実施した紅白歌合戦の8Kパブリックビューイングでは、ステージと観客席が同時に映せるので、ステージ袖の入れ替わりの様子やカメラクレーンなども観ることができ、迫力と参加感が出せる。

【岩浪構成員】

- Windows3.1の時代にiPhoneを作ると3億円かかったという試算がある。シンギュラリティの話もあるが、演算速度を飛躍的に向上させるこうした技術革新の流れは、世の中を大きく変えるだろう。

【宮部構成員】

- 偶然の発見から大きなイノベーションが起こることがある。偶然を起こす機会を増やすこともイノベーションには重要。

【富田構成員】

- 労働力の観点からの女性や高齢者の活躍に貢献するICTのあり方も重要。

【清水構成員】

- 従来のICTは、投資のメリットが分かりやすかったが、最近のビッグデータなどは、やってみないと効果が見えづらい。短期間で効果予測を繰り返すリーンスタートアップのようなモデルを導入しないと新たな投資が起こりづらくなっている。

【棕田構成員】

- 高齢者の活躍という観点では、農業分野における4K8Kというものもあるのではないかと。農産物や土壌の状況を高精細画像でチェックするというのも一つの利活用のあり方かと思う。

【岡田構成員】

- 福岡ドーム内では、ソフトバンクによる場内ローカルの視聴コンテンツが楽しいと聞いた。五輪などでもスタジアムならではの場内コンテンツとそれ以外のコンテンツとを合わせて提供していくことが考えられるのではないかと。
- 4K8Kの利活用に当たっては、複数のディスプレイをつなぎ合わせるのと、一枚の大きなディスプレイでやるのと両方が大事。

【谷川座長代理】

- ICTによる底上げを図る観点から、女性、高齢者のしくみに加え、地方企業、特に、本社が地方に所在する会社がICTによって活躍できる使い方にも着目すべき。200数十万社がICTを利用していないと聞いている。

【三友座長】

- 人口減少シナリオに直面してきた多くの国々は、そのまま受け入れるのではなく、何とか食い止めようと努力してきた。人口減少傾向を食い止め、若者が暮らしやすくするためにICTの活用を考えることも重要。
- ICTの活用による課題解決の観点として、女性や高齢者の活躍という話があったが、地方で企業が活躍することを促すICTというのも重要ではないか。コマツの東京支社と地方の工場とでは出生率が違うそうだが、東京一極集中の問題でもある。地方に本社が残っていけるようなアイデアが求められる。
- 地方という視点は重要。五輪では東京に注目が集まるだろうが、4K8Kの使いどころはむしろ地方ではないか。

以上